



鶴岡市デジタル化戦略 案



本紙

本戦略が目指す デジタル実装社会の姿

1. 戦略の位置づけと基本的な考え方
2. デジタル実装社会の姿と市民生活

鶴岡市のデジタル化の全体像

ローカルハブ

①求心力

- 企業の意思決定機能
- 国家機関 等

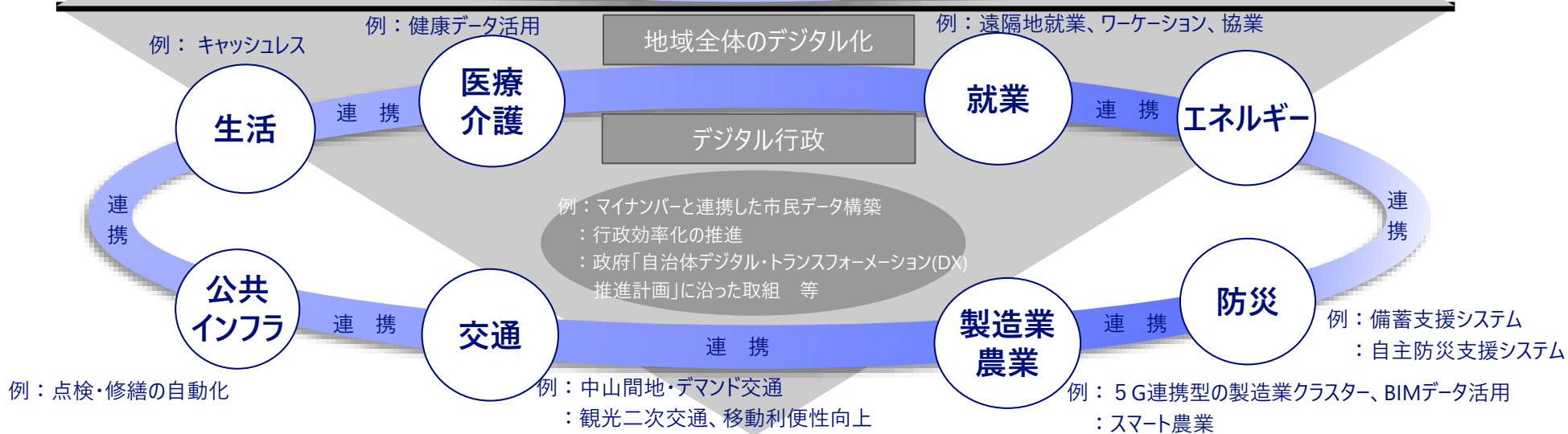
②連携力

- 国際化企業
- 世界で存在感のある技術力

③循環力

- 新しい産業を育成する仕組み
- 産業革新を応援する仕組み

ローカルハブの循環



ウェルビーイング・コミュニティ

※ ローカルハブ：地方にありながら、世界中とつながる機能（ハブ）を有する都市を表す造語で、具体的には、地域の生産性を向上させる可能性のある、自立的な産業・経済の構築が可能な都市を指す。
※ ウェルビーイング：あらゆる市民が身体的、精神的、社会的に良好で、個々人の理想が実現されている状態。「幸福」や「豊かさ」が実現されている姿を示す。

今後整備される個別テーマのデジタル化計画は本戦略を参照する。各デジタル化計画に統一的な方向性を持たせるため、デジタル化戦略では基本姿勢の言語化が必要となる。

鶴岡市デジタル化戦略の基本姿勢(素案)

1. 新しい生活様式（ライフスタイル）に対応した**行政サービスを提供する**
デジタル技術の活用
2. **市民生活**を便利に暮らしやすい地域社会にするデジタル技術の活用
3. **行政の財政的負担、事務的負担**を軽減するデジタル技術の活用
4. デジタル社会の**担い手の育成・確保**に向けた**試行錯誤**を繰り返せる風土作り
5. **安全・安心**なデジタル環境の構築・整備

本紙

本戦略が目指す デジタル実装社会の姿

1. 戦略の位置づけと基本的な考え方

2. デジタル実装社会の姿と市民生活

デジタル化の進展によって都市は一層、他地域との競争に晒される時代となる。

- 時間と空間の制約が低減され、デジタル上で関係人口となり得る対象は増加する。
- この変化は他地域も同様であり、地域間の競争は厳しさを増す。
- 地域サービスの競争力を強化し、地域の内外の住民・企業から選ばれる都市となる必要がある。

デジタル化時代における地域間競争環境の変化

時間・場所の制約



- デジタル化の浸透、新型コロナウイルスによる生活様式の変化により、**時間と場所による制約が低減される。**

関係人口となる対象



- デジタル上では、売買、人の交流、勤務等について、市民の視点からは、市内外による違いは少なくなるため、潜在的な**関係人口は増える。**

地域間競争



- 人材確保、サービス提供の他地域との競争は**一層過酷さが増す。**
- 一方で、**他地域の需要を取込める好機**と捉えることもできる。

デジタル上での
**地域サービスの
競争力**
が一層問われる時代

サービスの消費に伴い地域内に価値が蓄積していく社会を創る。

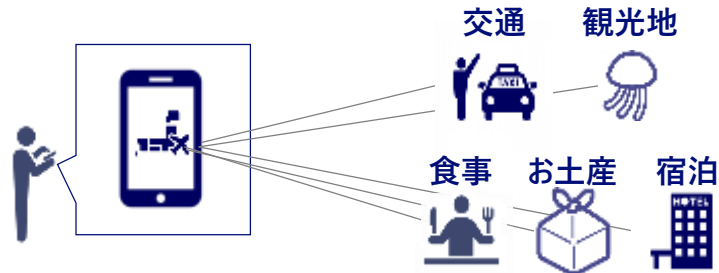
観光客が鶴岡に来訪した場合のデータ蓄積例

従来のデータ消費・蓄積

- 大都市圏の企業を中心に、デジタル上での活動データ等について収集・分析が行われている。
- 一方で、現実世界(リアル)での活動は、地域内に蓄積されてこなかった。

Web上での活動

地域での活動



デジタル上の活動の一部が
他地域のデータベース
にのみ蓄積

旅行日 旅行者の属性
キャンペーンの効果 満足度

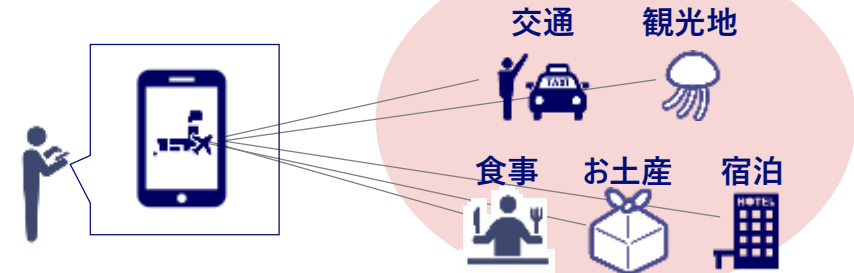
目指すデータ消費・蓄積

- 現地でしか知り得ない実世界の情報も含めた活動データを地域に蓄積し、地域で活用を図る。
- 非競争領域のデジタルインフラについては、地域が協働して整備する。

Web上での活動

地域での活動

鶴岡市のデジタルインフラ



他地域のデータベース
に蓄積

実世界の情報も含め
地域にデータを蓄積する

旅行日 旅行者の属性
キャンペーンの効果 満足度

旅行日 旅行者の属性
キャンペーンの効果 満足度
+

実世界でしか得られない情報
(お客の生の反応など)

蓄積した価値の地域内循環

作成・蓄積したデータの地域内循環（データの地産地消）を促し、
地域一丸となって地域サービス強化、市民生活向上が持続する仕組みを整備する。

鶴岡市民と共に創り上げる「デジタル実装社会」

市民とサービス提供者によるデータの地産地消

ローカルハブ

デジタル活用による地域の生産性向上
内発的な産業・経済の構築

ウェルビーイングコミュニティ

高度化したサービスを享受すると同時に、更なる
生活向上に資するデータをサービス提供者に提供する



サービス品質向上に加え、市民にとってサービスへの接続が容易になる。



目指すデジタル実装社会の姿

いつでも



- デジタル上からいつでも官民の地域サービス享受

どこでも



- どこでもデジタルを介して官民の地域サービスに接続

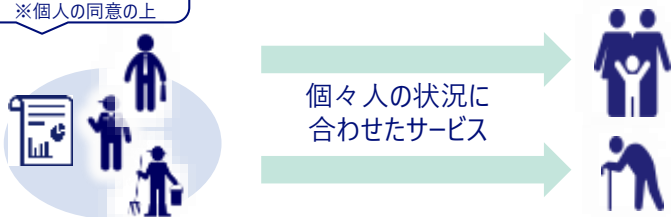
誰でも



- 効率化された時間でデジタルデバインド対応

自分にぴったり

個々人の状況を地域で把握※
※個人の同意の上



- 地域で利用者のデジタル上での活用履歴を共有

便利さ①

いつでも・どこでも・誰でも 地域のサービスにアクセス

例えば

- 行政サービスや自治会情報、地元商店等のサービス・情報が、Web・SNS等を通して、的確かつ迅速に受け取られる。
- 在宅での医療・福祉を受けられる。
- 一定数の人がデジタル上で手続きを行うことで、対面窓口に余剰時間が生まれ、市民はより丁寧なサービスを受けられる。

- 現実世界の窓口営業時間、営業場所の制約を受けず、サービス提供を受けられる地域とする。
- デジタル化に伴う効率化で生まれる窓口の余剰時間は、本当に対面での対応が必要な方に振り向ける。

便利さ②

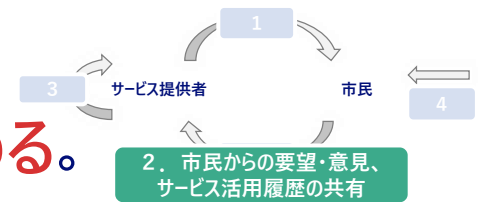
自分にぴったりの 地域のサービスを楽しむ

例えば

- ・ ライフイベント時(出産した時、介護が必要になった時、引っ越した時等)に、必要な官民のサービスが案内され、一部は手続きすることなく手配される。
- ・ AI活用により婚活等マッチングを受けられる。

- 地域全体が市民の状況を、市民に合意した範囲で把握。
- 個々人の状況に応じたサービスを提供する。

市民の要望を地域サービスに反映し、他地域に対する競争力を高める。



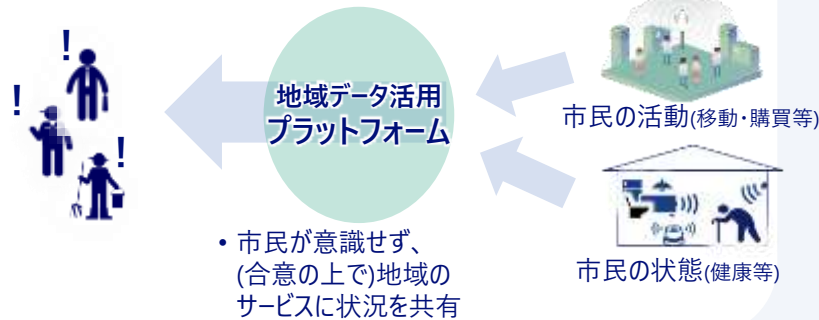
目指すデジタル実装社会の姿

意識的なフィードバック



- 地域サービスに市民から意見・要望を共有

無意識的なフィードバック



- 市民が意識せず、(合意の上で)地域のサービスに状況を共有

便利さ①

意識的に 地域のサービスにフィードバック

例えば

- 市民が身近な生活の中で感じる要望・意見を、地域で運営するWeb上の掲示板に記載。多くの市民から賛同を得た意見について、地域で検討。

- 地域サービスについて、市民とサービス提供者が課題を共有する。
- サービス提供者は、市民からの意見・要望をヒントに、サービス品質の向上を図ることができる。
- このことにより、地域全体のサービスの競争力を強化する。

便利さ②

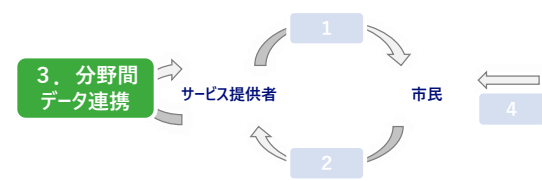
無意識的に 地域のサービスにフィードバック

例えば

- 移動や購買履歴、健康データなどを市民の特別な操作なく蓄積し、訪れたい・住みたい観光地づくりの推進に活かすことができる。

- 市民の活動状況からは、日々膨大なデータが生まれている。
- これらのデータを地域で共有し、サービス・市政に活用する。
- このことにより、市民が普段の生活を送る中だけで、地域の生活の質が自然と向上する地域となる。

地域課題の地産地消に地域サービス提供者全体で挑戦する。



目指すデジタル実装社会の姿

産・学・官 が連携した地域課題の解決



便利さ①

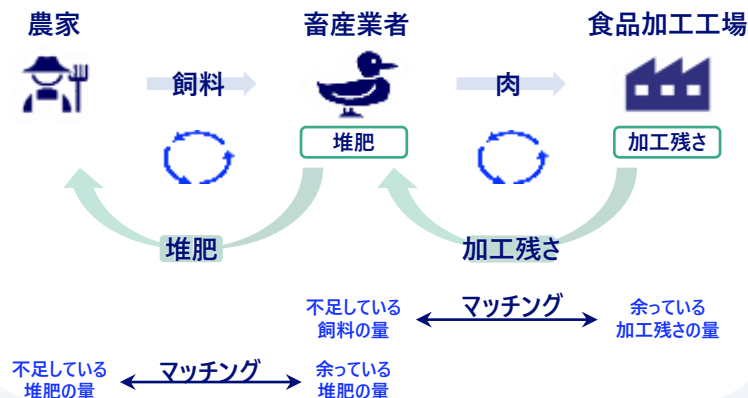
産・学・官 でのデータ連携

- 市民・行政が課題を共有し、**地域の学術機関と連携**して、課題解決の検討を行う。
- 課題解決のために開発された技術が、全国的に継続的な需要が見込める等する場合は、**地域の新規産業としての定着**を目指す。

例えば

- 農作物への鳥獣被害について、市役所が状況を把握し、地域の学術機関と連携して技術開発し、地域の力で地域課題を解決することができる。
- 地域に技術が蓄積の中で次世代の人づくりを進め、地域就職を促進することができる。

地域内 企業間 でのデータ連携 (例)



便利さ②

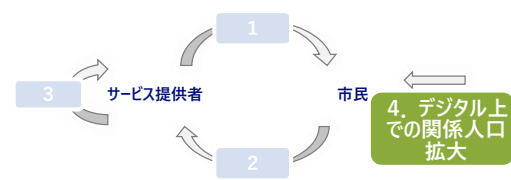
地場企業間 でのデータ連携

- 地域企業間において、共有が必要な(非競争領域の)データがある。
- これらのデータ共有の仕組みを、**地域一体となり整備**を進め、地域全体で競争力を強化する。

例えば

- 地域の廃棄物(堆肥、加工残さ等)の情報を、関連企業間で可視化し、地域内で新たな活用方法を創出する。
- このことにより、企業の競争力強化、農業生産を拡大・効率化する。

デジタル上で鶴岡の取組に参画する**電子市民**を獲得する。



目指すデジタル実装社会の姿

地域外の住民が鶴岡市のサービスに
継続的に接続



便利さ①

デジタル上での

関係人口増加

■ デジタル上で情報発信・サービス提供を行い、以下のような人との**継続的に繋がり**を築く。

- 旅行やビジネスで鶴岡市を訪れたことがある人
- 以前に鶴岡市に住んでいたことがある人
- 鶴岡のサービスを利用したことがある人

例えば

- 鶴岡に旅行に来たことがある人に対して、定期的にデジタル上(鶴岡市公式LINE、市HP)で、地域ぐるみで官民の情報発信・サービス提供を行う。
- 国内の都市のみに留まらず、海外をもターゲットとして、サービスを提供できる。

地域外の住民が鶴岡市の取組に
参画



便利さ②

電子市民

として地域の取組に参画

■ 地域のサービス向上のために、地域の取組に参画する個人や団体(電子市民)を増やし、**市内外の資源を活用**できるようにする。

■ 地域の取組への参画の例として以下のようなものが考えられる。

- 町内会への参加
- 地域サービスへの意見・要望提示

例えば

- 他地域の住民が、鶴岡市の行政や地域のサービスを受け、サービスの対価を地域に還元し、自治会やイベント、サービス企画等の活動に参画する。
- デジタル上での活動をきっかけとして、移住定住に繋がる可能性がある。

鶴岡を特徴づける要素とデジタル化への期待

ウェルビーイングコミュニティ、ローカルハブの実現に向け、鶴岡の特徴をデジタル施策でさらに引き出す。

鶴岡を特徴づける要素

デジタル化への期待

ローカルハブ



高等学術機関・
バイオベンチャー集積

- 先端技術ベンチャー企業の創業・成長が継続的に行われる地域とするために、環境を整備する必要がある。
- 地域全体に利益が波及する仕組みづくりが求められる。



地域に根差した産業

- 政府はSDGs登録認証を契機とし、地場企業への投融資の仕組みづくりを推進。
- デジタル上では、従来競合し得なかった遠方地域の企業とのサービス・人材確保の競争機会が増す。



自然豊かで
東北一広い市域

- 豊かな自然との共存のため、防災リスクへの対応、鳥獣被害対策が求められる。
- 特に中山間地域では高齢者等の健康管理の必要性がさらに高まる。



ユネスコ食文化創造都市
3つの日本遺産に選定

- 国内唯一のユネスコ食文化創造都市への選定、全国最多の日本遺産数を活かすためにも、データに基づく観光・交通施策の検討が必要。



グリーンエネルギー
関連の取組

- 下水処理時に発生するガスでの発電、湯野浜温泉の地熱利用、鶴岡バイオマス発電等のエネルギーの地産地消施策は、SDGsへの取組が求められる中で一層、重要性が増す。



SDGs未来都市に選定

- 行政、民間事業者、市民等の異なるステークホルダー間で、SDGsの理念を共通言語として、地域発展のための建設的な議論がますます求められる。

ウェルビーイングコミュニティ

